

令和6年度 第1回
函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和6年11月26日（火）10時30分～12時00分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	<p>(1) 協議事項</p> <p>① 協議会の設置および委員の委嘱について</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>① 縄文遺跡群の保存活用</p> <p>② 縄文遺跡群の普及啓発</p> <p>③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和6年度上半期）</p> <p>④ 史跡大船遺跡の保存活用計画の策定について</p> <p>(3) その他</p>
出席委員	<p>熊谷 儀一 会長 佐藤 安浩 副会長 竹内 正幸 委員</p> <p>大宮トシ子 委員 谷口 諭 委員 三浦 孝史 委員</p> <p>田中 佳丈 委員 菅原 学 委員 三浦 信一 委員</p> <p>中本 邦雄 委員 佐々木孝比古 委員</p> <p style="text-align: right;">(計11名)</p>
事務局	<p>教育委員会</p> <p>生涯学習部次長 宮田 至</p> <p>文化財課長 木村 元子 文化財課主査 野村 祐一</p> <p>文化財課主査 吉田 力 文化財課主事 横岡 歩</p> <p>文化財課主事 小塚 陽介 文化財課主事 藤田 真由</p> <p>南茅部支所</p> <p>支所長 川口 洋</p> <p>地域振興課長 宮越 忠</p> <p>産業建設課長 加我 明夫</p> <p style="text-align: right;">(計10名)</p>

1 開 会

(事務局)	開会
-------	----

2 挨 拶

(生涯学習部次長)	開催挨拶
-----------	------

3 出席者紹介

(事務局)	協議会委員および事務局紹介
-------	---------------

4 議 事

議長あいさつ

(議長)	<p>それではこれから議事に入るが、当協議会については皆さんそれぞれの分野で様々な活動とご協力をいただいている。</p> <p>冒頭の次長挨拶でもあったとおり、縄文遺跡群の北海道の拠点が南茅部地域となった。後ほど詳しく話を伺いたいと思っている。今後いろいろな活動が函館全体でできると思っている。皆さんからご意見をいただき、本日の会議が実りある会議になればと思っている。よろしく願います。</p>
------	---

(1) 協議事項

① 協議会の設置および委員の委嘱について

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料1)「函館市縄文遺跡群保存活用協議会設置要綱」 「 同 委員名簿」・「別表」説明
---------------	---

新たな団体の加盟について

(事務局)	委員の減について説明 新たな団体の加盟について、NPO法人「南かやベリバイブサロン」を提案。
(議長)	提案のあったNPO法人は南茅部地域のまちづくりなどを行う団体とのことだが、南茅部支所長から補足説明をお願いしたい。
(南茅部支所長)	<p>南かやベリバイブサロン(MRS)について、活動主旨は熊谷会長のおっしゃったとおりである。</p> <p>MRSは南茅部に拠点を置いて仕事をしている20代から60代の漁師や林業に携わる方、会社経営者などのメンバーと協力している者を含め総勢10数名いる。昨年から活動を開始し、今年3月にNPO法人として認定された。</p> <p>南茅部支所としても、地域のイベントや各種事業など様々な機会において協力をいただいている団体の一つである。</p> <p>今後、南茅部においてますます精力的に活動していく団体であることから、この協議会の委員としては適任の団体であると認識している。</p>
(議長)	はい。ありがとうございました。 それでは委員の皆さまからご意見がありましたら、発言をお願いします。

	委員が減になったということで、新しいグループを参加させてはどうかということなので、参加されることに異議はありませんか。
(委員)	(同意)
(議長)	はい。ありがとうございます。異議なしということなので、事務局はNPOに打診してみてください。 また、なるべく若い方、それから大宮委員しか女性委員がいないため、女性の方に参加してもらえればと思う。

(2) 報告事項

① 縄文遺跡群の保存活用について

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料2)「令和6年度 事業報告 ① 縄文遺跡群の保存活用」説明
(議長) (委員一同)	質問や確認等はないか。 (特になし)

② 縄文遺跡群の普及啓発について

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料2)「令和6年度 事業報告 ② 縄文遺跡群の普及啓発 ア 世界遺産登録3周年記念事業」説明
(議長)	はい。ありがとうございます。 はこだて縄文まつりの現場の責任者である佐藤委員（縄文文化交流センター館長）に、縄文まつりの総括や反省なども含め発言をお願いします。
(佐藤委員)	縄文まつりの総括という話だが、まず天気もよく沢山の方に来てもらえて良かった。体験スタンプラリーを実施したことで体験ブースが満遍なく賑わった。出店したどの体験ブースの方からもお客様に沢山来ていただけたと言われた。 1点残念なことは、垣ノ島遺跡でのまつり開催は今年で3回目となるが、1回目より2回目の方が来場者数は多かった。だが3回目となる今年は、昨年と比べ100名ほど減であったことは残念だった。まつり当日は市内各所で様々なイベントが開催され重なったためだ。できれば交通整理をしていただきたいと当実行委員長からも意見があった。10月の三連休ということもあり市内各所でイベントを開催するいい時期ではあるため難しい面もあるとは思うが、多くの人に来てもらいたい。今後、実行委員会を開催して反省会を行い、来年の開催に向けていきたい。
(議長)	はい。ありがとうございます。 色々な啓発事業があったが、全体を通して教育委員会として、どのような評価をしているのか。参加者から意見や要望があったのか。
(事務局)	イベントの普及啓発活動についての受けとめ方についてのことだが、今年度はイベントの数が多かった。

	<p>世界遺産登録3周年を記念していろいろな事業ができるのではないかと可能性が広がった。その中でもお子様を対象としたイベントが多かったことで、今後改めて遺跡に行ってみたい、縄文文化に興味を持ったというきっかけづくりになったのではないかと考えている。</p> <p>来年度以降も、こうしたすそ野を広げるためのイベントは、縄文遺跡群を訪れたいという気持ちを持ってもらうためのきっかけづくりとして大事であるため、今後も続けていきたいと考えている。</p>
(議長)	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>それでは委員の皆様からご質問を受けたいと思います。</p> <p>ご意見・ご質問がありませんので、ただいまの報告は了承ということで終わりたいと思います。</p>
(議長) (事務局)	<p>事務局に説明を指示 (資料2)「令和6年度 事業報告 ② 縄文遺跡群の普及啓発 イ 普及啓発活動～ウ 他団体事業への協力」説明</p>
(議長)	<p>いま説明があったが、多くの人に関わっているいろいろな啓発活動をしているのだが、ただ地域にみなさんの活動がなかなか伝わっていないというのが実情である。</p> <p>みなさんご苦労なさっているいろいろな活動をされているが、地域に縄文の啓発活動を、簡単なことでもかまわないので、どのように伝えるのかも今後の課題だと思う。そのことについて何かいい方法があれば地域でも取り組んでいきたい。</p>
(事務局)	<p>南茅部地域にも、こういった外でいろいろなプロモーション活動をしていることを含め、活動の内容をもっと地域にもお知らせしてほしいということだが、いまお答えできないのだが、そういったことを心掛けながら、機会を捉えて、地域の皆さまと一緒に縄文遺跡群を盛り上げていくことを忘れずにこれからも活動を進めていきますのでよろしくお願いします。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>なかなか縄文というのは、ここは漁師の町のため、頭から難しいと思ってしまい、地域での普及活動に限られた団体だけの話となっていて、それぞれ一人一人が縄文を活用するのは難しいかもしれないが、ただいまいただいたことについて、地域でも話し合いをして、いろいろな方々の協力を得ながら進めていきたい。</p> <p>それでは、この項目についてはよろしいですか。</p>
(各委員) (議長)	<p>(了承) ありがとうございます。</p>

③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和6年度上半期）

(議長) (事務局)	<p>事務局に説明を指示 (資料3)「世界遺産の保全にかかる遺産影響評価」 (令和6年度上半期) 説明</p>
---------------	---

(議長)	<p>遺跡の中にいろいろなものがあるが、それに対してそれでいいのかどうなのかという話が、地域の方から私の方にもあるのだが、なかなか難しい。これは最終的に現況を確認した中で評価をするとなっていますから。函館市の景観条例そのものが国から出ているものですから。その点、地域の人達の違和感に対することをどう説明するのかというのも、それぞれの専門分野に聞かないとわからない。</p> <p>今回の評価についてはおおむね良好ということなので、これについては了承をいただきたい。よろしいでしょうか。</p>
(委員一同)	(了承)
(議長)	<p>ひとつだけ、前にも私の方からお話ししたのだが、太陽光パネルを設置していますね。それと、いま道路工事をしている駐車場の向こう側の角で喫茶店のような建物が建っていますよね。プレハブかな。これについてどう思うか。</p> <p>それから縄文センターを建設するとき、盛土遺構側の道路の方、管理棟のある道路の方に高い木を移植する話があった。垣ノ島遺跡そのものを木で囲むという計画があったと思うが、そのことについては今後も考えているのか。</p> <p>というのは、今言ったような建設物が今後また出てくると思うが、そこから垣ノ島遺跡を遮蔽するような形のものがなんとかできないのか。景観条例にも関与するものになるが、教育委員会としてはどのような見解を持っているのか。</p>
(事務局)	<p>太陽光パネルはかなり前にできていたのだが、カフェについては昨年度の第2回今年の2月に開催した当会議の中で、遺産影響評価の実施状況として報告をした。遺跡の周辺、いわゆる緩衝地帯の中で行われる行為に関しては、今回の報告と同じようにまず地下に影響がないか、また景観上影響がないか、この2つの観点から判断して評価する。もちろん重大なことであれば規制などを考えないといけないが、いずれも影響なし、レベル1程度、0もしくは1で収まっているという評価である。開発行為等は把握しているので、同じような手順を踏んで問題ないということで施工している。</p> <p>臨港道路の樹木の目隠しについては、今回報告した遺産影響評価の②の森と海の会の協力を得ながら史跡内にヤマグリの苗木を植えた。今回植えたのは(高さ)1.5m程だが、それが成長していくことによって、史跡内から現代構築物が見えないという遮蔽効果が生まれるというふうに考えて設置したものになる。</p> <p>加えて、開発建設部の方でも臨港道路の近くに同じように道路の遮蔽効果を期待して植樹をする。教育委員会では史跡内の植樹を行い、開発建設部の方でも景観に配慮した植樹を行うということで調整をしている。年々、木が伸びることで、さらにその効果が高まると考えている。</p> <p>今後、木の成長と開発建設部でも木を植えることで、対策を二重にとっている状況である。</p>

(議長)	ありがとうございます。今後いろいろな建設物ができてくる可能性は十分あるわけなので、その都度現場を確認しながら、垣ノ島遺跡にある程度影響のない方向で進めていただきたいと思いますと思っている。
------	--

④ 史跡大船遺跡の保存活用計画の策定について

(議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料4)「史跡大船遺跡保存活用計画(案)の概要」説明
(大宮委員)	<p>私は大船遺跡の管理棟に勤務しているが、7～8年前に大船遺跡の「縄文のにわ」に栗の木を植樹したが、カバーをつけたままだったため、昨年にカバーを外したらほとんどの木が腐っていて育たない状況だったため、腐っていた木は伐採した。</p> <p>今後また植樹をすることがある場合には、完全復元住居の周りに植樹するのはよくないと思っている。復元住居に日が当たらなくなると、冬の時期に雪が積もって(春の)雪解けが遅れるので、復元住居に影響する場所には植樹はしないほしい。</p>
(事務局)	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今後も、植樹については史跡の中ではあり得る行為なので、現場の方の声はすごく大事である。今回、検討委員会の中にも(道南)歴史文化振興財団の学芸員の方にも入ってもらって、現場の声を聞きながらそれを反映していくという流れとなっている。ルールを作りながらやっていくが、実際に細かいことについてはその都度現場の方と話しながら計画するということを強く意識していきたい。</p> <p>今後も現場の意見を大事にし、お伝えいただければ反映していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p>

(3) その他

(事務局)	<p>事務局から下記2点を説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 拠点整備の要望活動と北海道の方針について 2) 次回の開催時期
(議長)	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>11月14日に道新に記事が出ました。記事を見て良かったなという思いがある。ただ良かっただけでは済まされない、重要な拠点になる訳ですから、どう活用するか難しいと感じている。活用方法について次の会議なのか、道から決まった後なのかわかりませんが、会議の中でみなさんにご意見いただきたく思う。早急にこれが実現できればと願っている。</p> <p>いま2人から話を伺いたいのだが、函館市に拠点をおく道の方針について南茅部が推薦されているが、このことについて竹内委員(道南縄文文化推進協議会 事務局長)、何かありましたら発言願ひする。</p>
(竹内委員)	<p>先程の10月の要望については木村課長から函館市と函館商工会議所との話があったが、実際には三者連名で、大泉市長、久保会頭、境道南縄文文化推進協議会長名で出したものである。</p>

	要望内容については三者連名の意思と思っただけであればと思う。
(議長)	はい。ありがとうございます。今の竹内委員の発言について、谷口委員（函館商工会議所 専務理事）は同じ意見でしょうか。補足などありますか。
(谷口委員)	はい。補足は特にありません。
(議長)	はい。ありがとうございます。それではいま申し上げたとおり、方向が決まったら皆さんによろしくするというご理解いただきたい。 その他、皆さんから意見ありますか。
(大宮委員)	縄文まつりについて、縄文まつりには南茅部高校の縄文クラブがブースを出店してくれたが、縄文まつりの説明になかったので、南茅部高校の生徒たちが頑張っていることを皆さんに知っていただきたいと思う。
(議長)	大宮委員の発言について、三浦（信）委員（南茅部高校 校長）何かございますか。
(三浦（信）委員)	協力できることは要請を受けてやっているが、どうしても生徒数が少なくなったことと、閉校が決まっていることもあり、これまで小中高と、小学校で縄文に興味を持ち、中学校で縄文の価値を理解して、高校生になってこれをみんなでアピールをしていくという取組を行っている。 各種イベント事に声をかけていただけたら、事前にわかっていることなので、南茅部高校の生徒だけでなく、例えば縄文まつりであれば、何年か後には南茅部高校の生徒だけでは難しいから、中学生にも声をかけてこうやればいいんだよと教えるとか、南茅部出身で函館の市街地の学校にいる子に南茅部高校が持っているノウハウを繋げていきたい。 こういう協議会の場でどういう方向で繋いでいくのかを協議していただければ、高校が持っているノウハウを拠点施設なりに移植したりできるのかなと思っている。さらに活躍をわかっている方が地域にいることがわかり嬉しく思う。 ありがとうございます。
(議長)	いま小中高が1校ずつになった。三浦（信）委員がおっしゃったとおり、小中高の連携を大切に行かなければならないと思う。それぞれ協力の度合いを深めていただければと思う。

5 閉会

(事務局)	閉会
-------	----

(了)